

# 平成 23 年度滋賀大学健康セミナー

健康な生活を送るための正しい情報を手に入れましょう！  
滋賀大学保健管理センターがその機会を提供します。

① 平成 24 年 1 月 27 日（金） 16：30～17：30

「糖尿病についてもっと知ろう！」

講師 滋賀大学保健管理センター准教授 山本祐二

場所 大学サテライト・プラザ彦根

（JR彦根駅前 平和堂アル・プラザ彦根 6階）

② 平成 24 年 2 月 3 日（金） 13：30～15：00

「うつを正しく理解する」

講師 滋賀大学保健管理センター准教授 久保田泰考

場所 滋賀大学事務局大会議室

（彦根市馬場 1 丁目 1 番 1 号）

③ 平成 24 年 2 月 24 日（金） 16：00～19：00

特別ワークショップ「神経精神分析の現在」

パネリスト

京都大学医学部附属病院地域ネットワーク医療部准教授 岸本寛史

滋賀大学保健管理センター准教授 久保田泰考

京都文教大学臨床心理学部准教授 平尾和之

京都大学医学部附属病院探索医療センター研究員 成田慶一

場所 滋賀大学大津サテライトプラザ

（JR大津駅前 平和堂アル・プラザ大津 5階）

●入場（参加費） 無料

●参加希望の方は、電話又はファックスにて滋賀大学保健管理センター（TEL/FAX0749-27-1024）までお申し込み下さい。（先着 30 名）



多数のご参加・お申し込みを  
お待ちしております。

## 滋賀大学保健管理センター・健康セミナー

### 特別ワークショップ 「神経精神分析の現在」

神経精神分析とは何なのでしょう？今日、心理学、社会科学、そして倫理学にまで急速にその領域を拡大し、方法論を洗練させ続ける神経科学—すなわち私たちの精神世界を脳という外部から探求するアプローチ—を、誕生してすでに 110 年を過ぎようという精神分析—精神世界の主観的経験をその内部から探索するうえで、今日でも最も強力な方法であると私たちが信じる臨床実践—へと接合すること、そうした、まだ開始されたばかりの新しい試みの全てを、とりあえず神経精神分析と名付けることができるでしょう。

それは最新の脳科学に基づいて、何らかの新しい治療技法をもたらしてくれるような類の便利な理論、あるいはあまたの精神分析・心理臨床の流派に（またもや！）付け加えられたニューロサイエンスかぶれの一学派といったものではありません。フロイトが創始した精神分析という実践が、臨床の経験に基づいて絶えず再発見され、変革されてきたという事実、また特に常に神経科学の知見に対して開かれていたという点を思い起こすなら、むしろそれは、精神分析のオーソドクシーに連なる、探求の理念そのものというべきであろうと私たちは考えます。

私たち京都神経精神分析研究グループは、様々な臨床的背景や学派は異なりながら、これまでに 12 回を数える国際神経精神分析協会の研究集会に共に参加し、自らの臨床的実践を神経科学の知へと接合する試みを続けてきました。今回のワークショップでは、そうした研究の成果を紹介しながら、神経科学と精神分析の間でいかなる形の対話が可能なのかという問いをさらに探求していきたいと考えます。こころの臨床に興味をお持ちのすべての神経科学研究者、そして神経科学に興味をお持ちの全ての臨床家の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

#### パネリスト

岸本寛史 京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部 准教授（内科医）

久保田泰考 滋賀大学保健管理センター 准教授（精神科医）

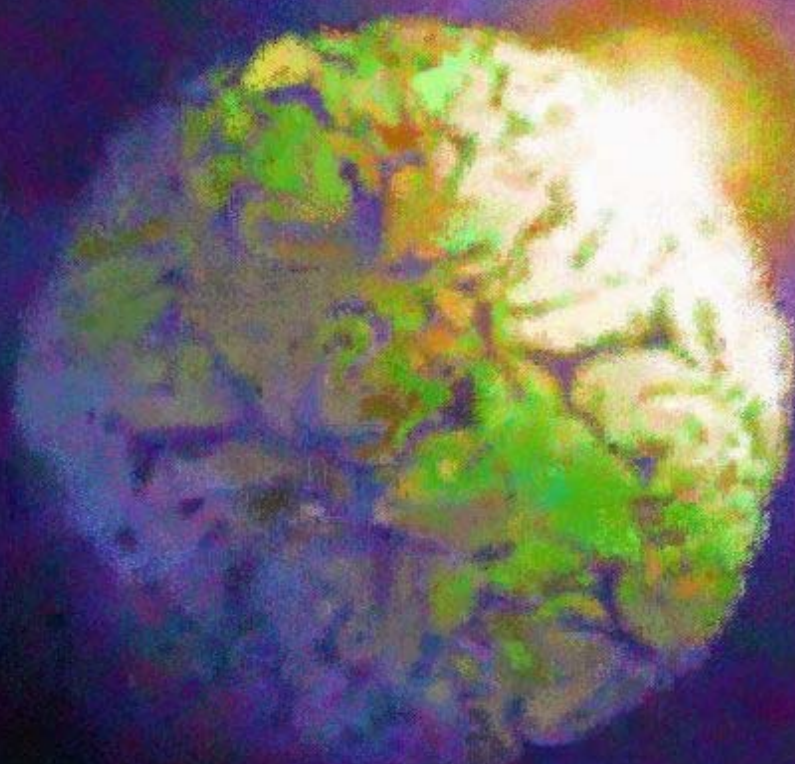
平尾和之 京都文教大学 臨床心理学部 准教授（精神科医）

成田慶一 京都大学医学部附属病院 探索医療センター 研究員（臨床心理士）

滋賀大学保健管理センター・健康セミナー

特別ワークショップ

# 「神経精神分析の現在」



日時 2012年2月24日(金) 16:00 ~ 19:00

場所 滋賀大学 大津サテライトプラザ

大津市春日町1-5 アルプラザ大津内

**滋賀大学保健管理センター・健康セミナー  
特別ワークショップ  
「神経精神分析の現在」**

**プログラム**

**16:00－16:25**

**「神経精神分析のはじまりー心理療法と脳科学のコラボレーション」**

平尾和之

京都文教大学臨床心理学部

概要: 人の心に興味を持つ私たちにとって、心理的視点(個別的、主観的視点)と生物学的視点(普遍的、客観的視点)をどのようにつないでいくかは、大きなテーマである。精神分析と神経科学の橋渡しを試みるこの学際的なムーブメントのはじまりとここ 10 年ほどの展開を紹介しながら、二面的一元論というキーコンセプトから臨床実践に至るまで、神経精神分析の臨床・研究活動の広がりを概観したい。

**16:25－16:50**

**「いまなぜ神経精神分析なのかーヒステリーの問い」**

久保田 泰考

滋賀大学保健管理センター

概要: 技法としての精神分析がはぐくまれた母胎ともいうべきヒステリーという臨床実体は、決して 19 世紀末の遺物ではなく、今日でも精神科よりはむしろ神経内科領域において臨床的難題であり続けており、同時に神経科学研究者を引き付けてやまない謎を示している。神経画像や神経生理からのヒステリーへのアプローチを紹介しながら、自我、解離、行為の主体といった概念を再考したい。

**17:00－17:25**

**「方法論としての神経科学と心理臨床のトライアングレーション～ 先天性相貌失認の事例を題材に～」**

成田 慶一

京都大学医学部附属病院 探索医療センター

概要: 臨床の場に相貌失認を主訴としたクライアントが訪れたとき、心理臨床家は何ができるであろうか?そしてそこから学ぶべきものはどのようなものか?先天性相貌失認を神経精神分析の視座から考えていくこと(Narita et al, 2010)が、臨床心理士としての立ち位置に与えた影響を振り返りながら、心身に関する問題を語る方法論を考えたい。

**17:25－17:50**

**「臨死の意識変容—せん妄の神経精神分析的理解の可能性」**

岸本 寛史

京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部

概要:あるがん患者が「せん妄状態」で語られた語りを紹介して、神経精神分析的にどのようなアプローチの可能性があるか、論じたい。

**18:00－19:00**

**全体討議**